

2/20 木

敵基地攻撃能力保有

戦後日本の努力は水泡に帰す

「4日、自民党が『敵基地攻撃能力』の保有を政府に提言した。わたしは、断乎として反対である」——古川禎久法相が2020年8月、自身のホームページに書いた一文です。

古川法相 かつて主張

やかに実行していく」と述べた日のことを指しています。岸田氏は、「いかに自衛と言いかに中朝の脅威」と言いつつも、「敵基地攻撃能力」が周辺国へ向けた軍事的攻撃力であることを認めています。

「4日」というのは自民党が「敵基地攻撃能力」の保有などを求める提議を当時の安倍晋三首相に提出し、安倍氏が「提言を受け止め、しっかりと新しい方向性を打ち出し、速

『攻撃能力』を保有してしまえば、戦後日本の努力は水泡に帰す」とまで述べています。

安倍首相は退陣の際、「敵基地攻撃能力」の保有に関して結論を出すよう促し、これを引き継いだのが岸田政権です。岸田首相は、歴代首相の所信表明演説の中で初めて「敵基地攻撃能力」の検討を明言するなど憲法破壊の動きを強めています。岸田政権の危険性は明らかである一方、岸田氏の懸念も問われます。

(三)